

### 5 - 3 鳴門海峡の海底地形・地質構造

#### Submarine Topography and Geological Structure of the Naruto Strait

海上保安庁水路部

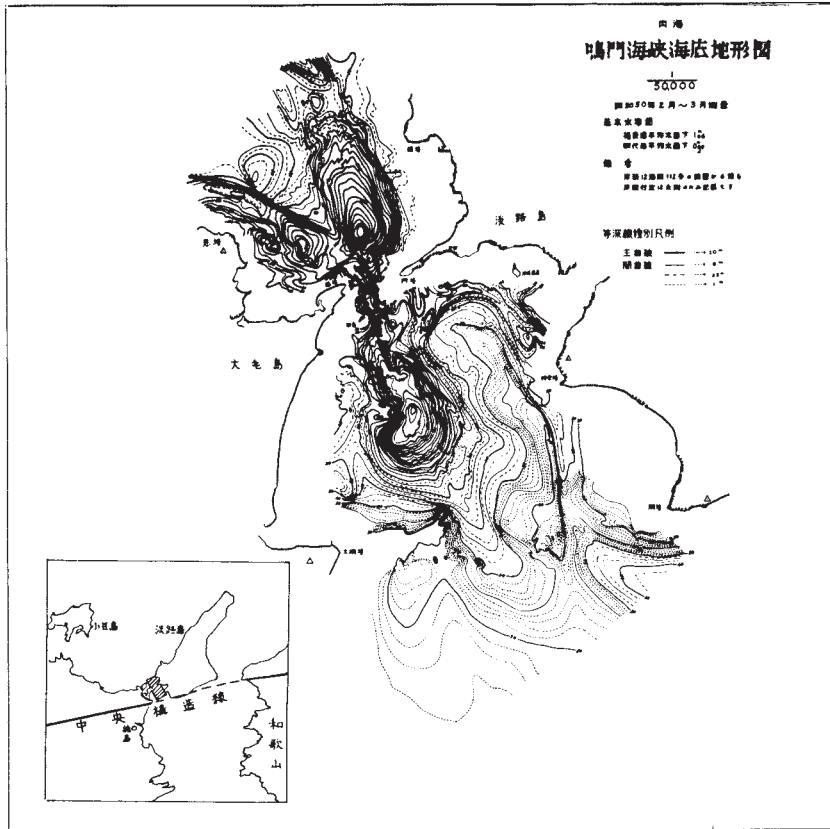
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

鳴門海峡は最強 10 ノットを超える潮流が流れている狭部で、海峡特有の複雑な海釜地形の発達する所である。海上保安庁水路部では 1974 年にこの海域の海底地形・地質構造の調査を実施した。その結果、表層堆積層の下に中央構造線と推定される異常な埋積地形を発見したので報告する。

第 1 図は海底地形を 1m 等深線（海釜内急斜面は 10m）で示したものである。孫崎、門崎の最狭部を挟んで、その両側に特有の海釜地形が見られる。南側の海釜は 1 ケで最大水深 164m、北側では東西 2 つに分れ東側が最大水深 216m、西側が 151m である。いづれも海釜底に広く岩が露出し、周辺部に礫が分布する。南海釜の東側には深さ 20m 以浅の砂州が南北方向にのびる。南海釜の南側の海底はこのような砂州の延長に当り、砂及び泥からなるゆるやかな堆積地形をなす。

音波深査の結果からこれらの堆積層を剥ぎとった結果 base に淡路島の南端潮崎と四国側の大磯崎をほぼ結ぶ位置に、南側に急斜面を向けた崖高 15 ~ 20m の急斜面が見出された。この急斜面の輪郭は多少屈曲しているがほぼ東西に走る。音波深査は磁歪型を使用したので基盤の断層構造は不明であるが、陸上の中央構造線の位置とほぼ一致すること、この地域の東側の友ヶ島水島南側で見出された中央構造線（推定）の形態と著しく類似し、連続関係が極めてよいことから、多分中央構造線に当るものではないかと推定される。

（茂木昭夫）



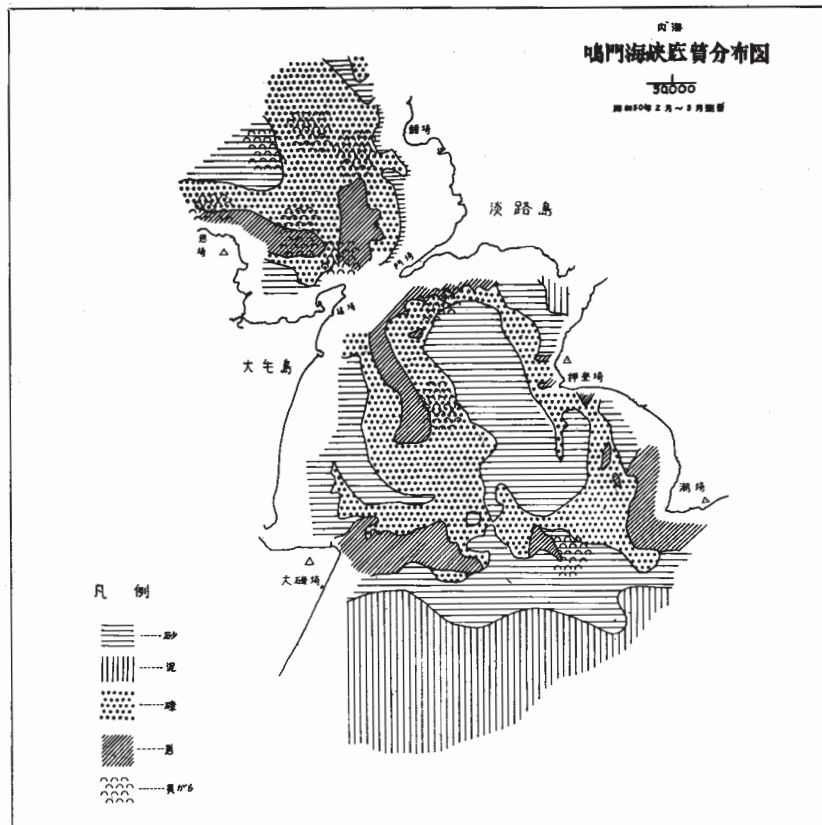
第1図 鳴門海峡の海底地形

Fig. 1 Submarine topography of the Naruto Strait.



第2図 鳴門海峡の堆積層基底

Fig. 2 Sub-bottom topography of the Naruto Strait.



第3図 鳴門海峡の底質分布

Fig. 3 Distribution of Bottom Sediments of the Naruto Strait.